

社会福祉法人 晋栄福祉会

奈良県生駒市で3カ所目の特別養護老人ホームを計画

「地域らしさを大切に」

高山ちどり施設長 なかしまかずえ 中島一栄さん

奈良県生駒市高山町。竹林に囲まれ「茶筍(ちゃせん)の里」として知られる緑豊かなこの町に、特別養護老人ホーム「高山ちどり」が誕生し早10年になる。デイサービスや施設の祭りを通じ、今では地元で親しまれる施設になった。来春、同じ敷地内に「(仮称)高山ちどり別館」を開設予定だ。新施設開設の背景や抱負を施設長の中島一栄さんにうかがった。

(文 和田依子 写真 陶器浩平)

●入所待機者が多い生駒市

窓の外には見上げるほどに天に伸びる竹。秋風にしなり、優しい葉ずれの音を立てていた。

「ここでは、時間がゆったり流れるんですよ」と中島さん。施設の周囲には竹林が広がり、畑の中に風情豊かな古民家が点在する。だが、この美しい風景も、足腰を痛めた高齢者には時に厳しい環境になるのだと話す。

実は生駒市の特別養護老人ホームへの入所待機者は300人を超え、その数は人口の多い奈良市に次ぐ。急な坂や細い山道が多い同市では、元気な高齢者でも膝や腰を痛めると、外に出るのが難しくなる。車がなければ買い物にも不便で、家に閉じこもりがちになる高齢者も多い。

生駒市は大阪のベッドタウンとして人口は増加傾向だが、高齢者人口に対する施設数の比率が低いのが課題だ。そこで晋栄福祉会は市の公募に応え、「高山ちどり」の敷地内に新たに特別養護老人ホーム「(仮称)高山ちどり別館」の開設を決めた。市内では、高山、萩の台に続く3カ所目の施設になる。

「地域らしさを大切にしたい。ご利用者だけでなく、面会に来たご家族にとっても、『帰ってきた』と思えるゆったりとした場所

にしたい」と中島さんは話す。

「高山ちどり」では折りに触れ、地域の自然を取り入れている。夏は竹で作った「流しそうめん」、秋の祭りでは「竹切り大会」。奈良県で生まれ育った中島さんにとって、古い佇まいの残る高山町の自然は、故郷の風景と重なる。利用者の地域への愛着にも共感できるのだ。

●海外からの新しい風

中島さんが新施設で取り組みたいこと。それは現施設で培った経験を活かしつつ、時代のニーズに応えた新しい設備やノウハウを取り入れることだ。介護の技術は日進月歩。10年前にはなかったが今は当たり前になっていることも積極的に取り入れる。

まず、法人が掲げるノーリフティングポリシー(メモ)に基づき移乗用リフトの導入を検討している。重労働を軽減することでゆとりが生まれ、スタッフが利用者のケアに専念できるようにするためだ。

さらに日本の労働力不足に対応するため、EPA(経済連携協定=メモ)に基づ



き、海外から介護福祉士候補者を受け入れる。将来は職員として共に働けるよう、今からよい関係を築きたいと考えている。

具体的には今年12月、インドネシアから4人の介護福祉士の候補者が「高山ちどり」に来る予定だ。「高山に新しい風が入ってくる。今のスタッフにもきっといい風を吹かせてくれる」と中島さんは期待に胸を膨らませている。

●出会いがあるから成長できる

晋栄福祉会が海外の人材を積極的に取り入れる背景には、経営方針に掲げる「ダ

メモ①

ノーリフティングポリシー

人力で要介護者を持ち上げたり、抱え上げたりしない理念を指す。看護や介護現場に携わる人たちの介助作業に伴う腰痛は職業病とも言われ、その予防対策としてこの考え方が導入された。1980年代後半にオーストラリアで取り組みが始まり、日本では介護施設関係者によって「全国ノーリフティング推進協会」が設立され、普及啓発活動が進められている。

イバーシティ(多様性)の重視」の考え方がある。兵庫・大阪・奈良の3エリアで30カ所以上の施設を運営する同法人には、さまざまな経歴を持つ、多様な職種の職員がいる。

老人福祉施設一筋の中島さんにとって、法人内のいろんな職種の人と出会うことは大きな刺激になっている。

「保育園の園長の意見を聞いたり、県外の福祉事情を知ることができたり。いろんな視点から今の仕事を見ることができるので、自分の成長につながるんです。それに困ったことが起きて一人でも悩まず、相談ができる人がたくさんいるのは心強いですね」と話す。

福祉の仕事は狭い施設の中で閉じているわけではない。いくらでも成長できるし日々発見もある。だがその魅力は若い人になかなか伝わらない。若い人材の確保は施設長である中島さんの悩みの種だ。

●「光栄」と思える仕事

中島さん自身は十代で福祉の道に進もうと決めた。祖父母と同居する家庭に育ち、高齢者と関わる仕事をしたいと自然に思うようになった。立命館大学産業社会学部で福祉を学び、卒業後は老人福祉施設で生活相談員として勤務し、26歳で施設長を任された。現在は晋栄福祉会で介護保険施設唯一の女性施設長として活躍する。

「仕事で辛かったことはありませんか?」と尋ねると、中島さんは「それはあまりないですね」と首を深く傾げ、「ただ…も

どかしい気持ちになったことはあります」

例えば、入居したご利用者から「家に帰りたい」と訴えられたとき。どんな言葉をかけていいのか悩んだという。結局、「そうですね。帰りたいですね」と気持ちに寄り添うことしかできなかった。

「本当は誰もが住み慣れた家がいい。私自身、その気持ちがよくわかるから…。ご利用者が一番信頼されているのはやはりご家族です。私たちは足元にも及びませんが、ここでできる精いっぱいのことをさせていただこうと思うしかないんですね」と中島さん。施設の限界を感じながらも、他にはない魅力があるという。

とりわけご利用者の「看取り」を任せられるときは特別な思いを抱く。ご家族から「信頼されている」という責任感。スタッフ皆でご利用者の状態を見守り、最期に立ち会える貴重な体験。ご葬儀で「ここに任せてよかった」とご家族から感謝される喜び。これらすべてが「光栄なことなのです」と中島さんは言った。

「こういうこと言うと、今どきの若い人は『重い〜』って言うのかも。でも、福祉の世界に飛び込んできてくださったら、得る



ご利用者がつくった多面体くす玉と
フラワーアートの桔梗(ききょう)

ものは大きいと思いますよ」

中島さんは少し笑った。

新しい施設は古都奈良の風土を活かした新たなチャレンジになる。中島さんは一緒に取り組む仲間を探している。

メモ② EPA(経済連携協定)

特定の国や地域同士の貿易・投資の自由化、人材・技術交流の拡大を目指す取り決め。介護福祉分野では、2008年度から介護福祉士資格の取得を目指す候補者の受け入れを開始。現在、インドネシア、フィリピン、ベトナムの3カ国から受け入れている。

晋栄福祉会 職員募集

詳細は晋栄福祉会採用特別Webサイトへ!

しんえいふくしかい

↑1.入力して



↑2.クリック

http://www.chidori.or.jp/recruit_chidori/

募集職種: 介護職員(生活相談員候補含む)・看護職員

雇用形態: 正職員・非常勤(応相談)

採用施設: (仮称)ケアホームちどり(大阪府門真市)、
(仮称)高山ちどり別館・高山ちどり(奈良県生駒市)、
晋栄福祉会各施設(大阪府、兵庫県、奈良県エリア)

休日: 年間休日107日(1ヶ月に9日以上。2月のみ8日の休日)年次有給休暇10日(初年度)、育児休暇、介護休暇、リフレッシュ休暇(勤続10年)、プリセット休暇(3~5日の連続休暇)

昇給: 年1回

賞与: 年3回4.2か月※2016年度実績

実績各種手当: 夜勤手当・資格手当・業務手当・住宅手当・交通費

保険: 健康・労災・雇用・厚生年金保険

福利厚生: 退職金制度・育児休暇制度・研修旅行

教育制度: 内定者研修・新人研修・中堅職員研修・法人研究発表会・施設内にある研修委員会の年間計画に沿って実施(感染症予防・AEDの使用方法等)